



**EspressReport ES クイック・スタート・ガイド**

Ver 1.0

2009年11月3日

**株式会社クライム**

## はじめに

### 本ドキュメントについて

#### 対象範囲

本ドキュメントは、EspressReport ES の Quick Start Guide です。このスタートアップ・ガイドの目的は EspressReport Enterprise Server(ERES)の基本的な機能をステップごとに理解してもらう為のものです

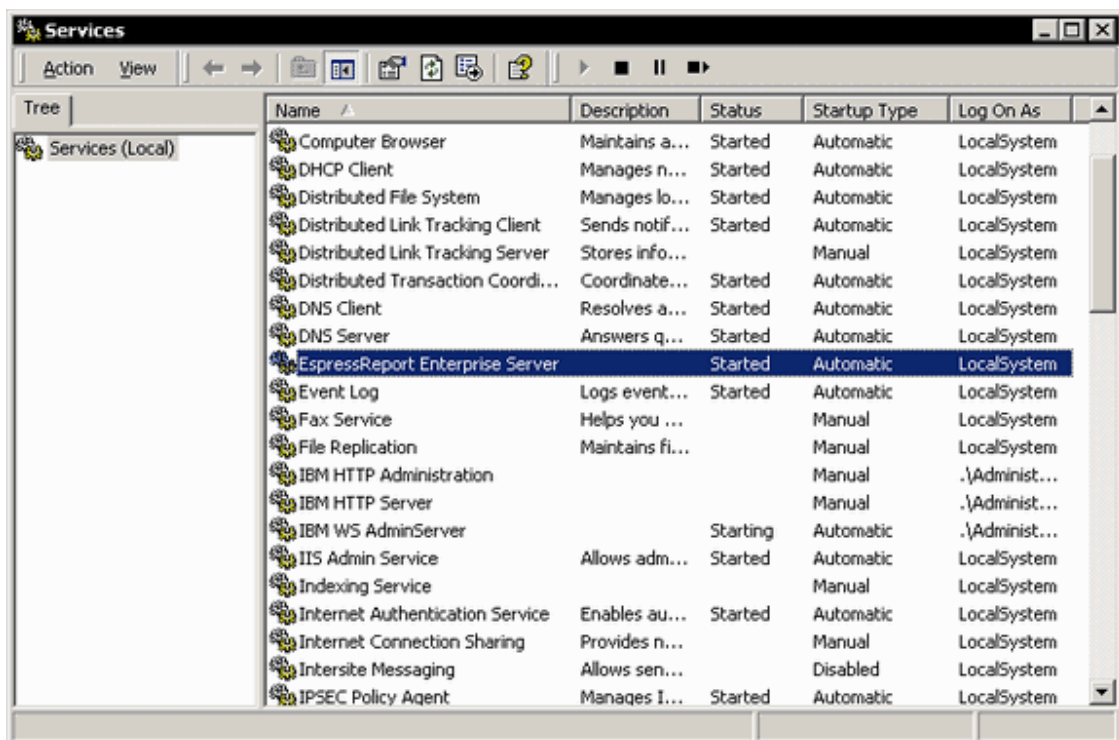
### 変更履歴

版	作成日	変更者	内容
1.0	2009/11/2	川上	初版

## Step 1: Start the Server

最初に ERES ではサーバをスタートさせます。サーバはそれぞれのプラットフォームによって違ってきます。

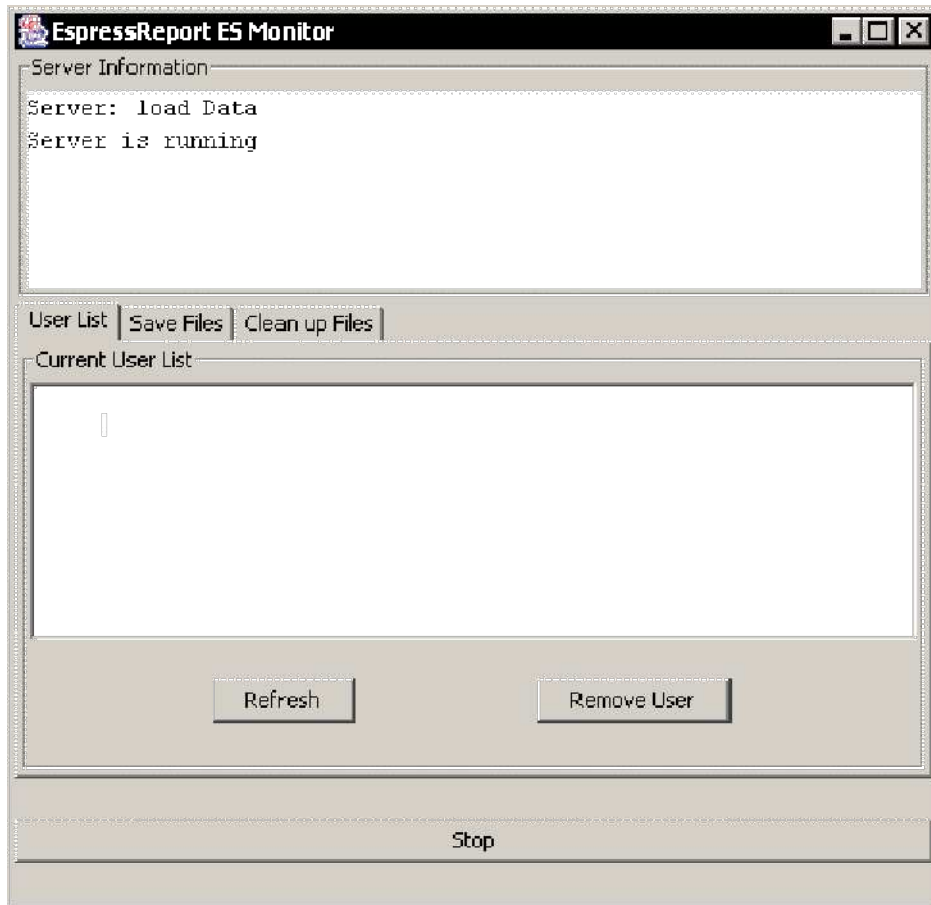
**WindowNT/2000 サービス:** WindowNT/2000 サービスとして ERES のインストールを選択したときは、システムの再起動後に自動的にサーバはスタートします。その稼働は Windows のコントロールパネルの「サービス」を確認ください。ERES のエントリで「開始」状態で確認できます。



**WindowNT/2000:** もしサービスとして ERES がインストールされていない時は Windows のスタートメニューからサーバをスタートさせてください。デフォルトでインストーラは EspressReportES の下に新たなアイコン・グループを作成します。サーバをスタートさせるには ECES Server のアイコンを選択ください。

**その他のプラットフォーム:** インストールのルート・ディレクトリ (デフォルトでは ECES ) にあるバッチファイルの「ECES Server」を起動してください。

デフォルトでサーバを起動した時にはサーバモニターがオープンします。( NT/2000 サービスは例外 ) サーバモニターの機能はマニュアルの Chapter2 に明記されています。

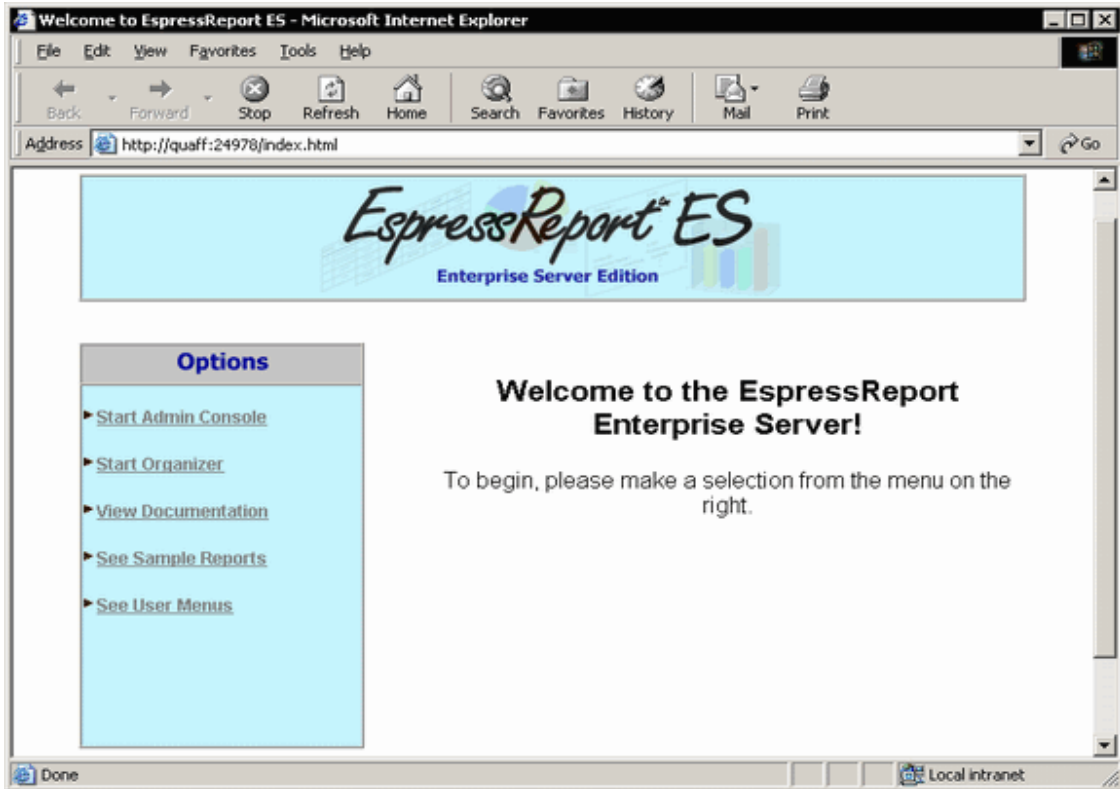


## Step 2: Load the Organizer

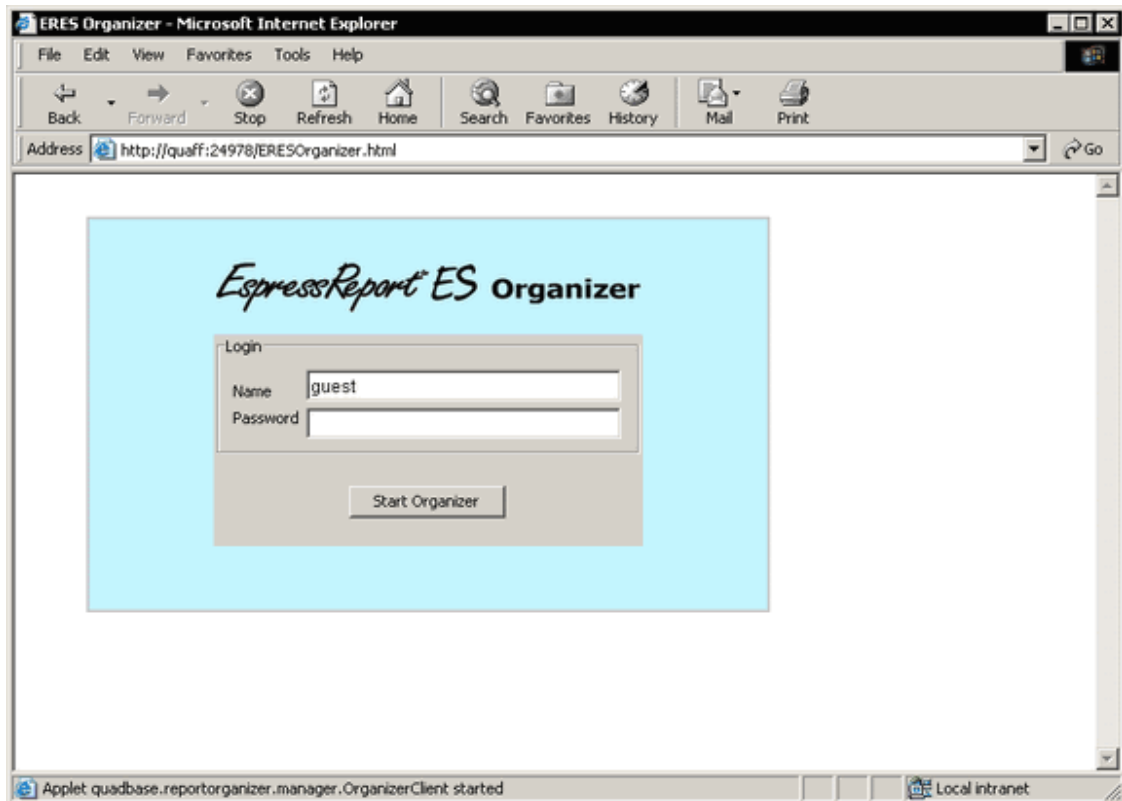
サーバ起動の次のステップは ERES スタートアップ・ページのロードです。このために Web ブラウザをオープンし、次のアドレスをポイントします。

`http://machinename:port/index.html`

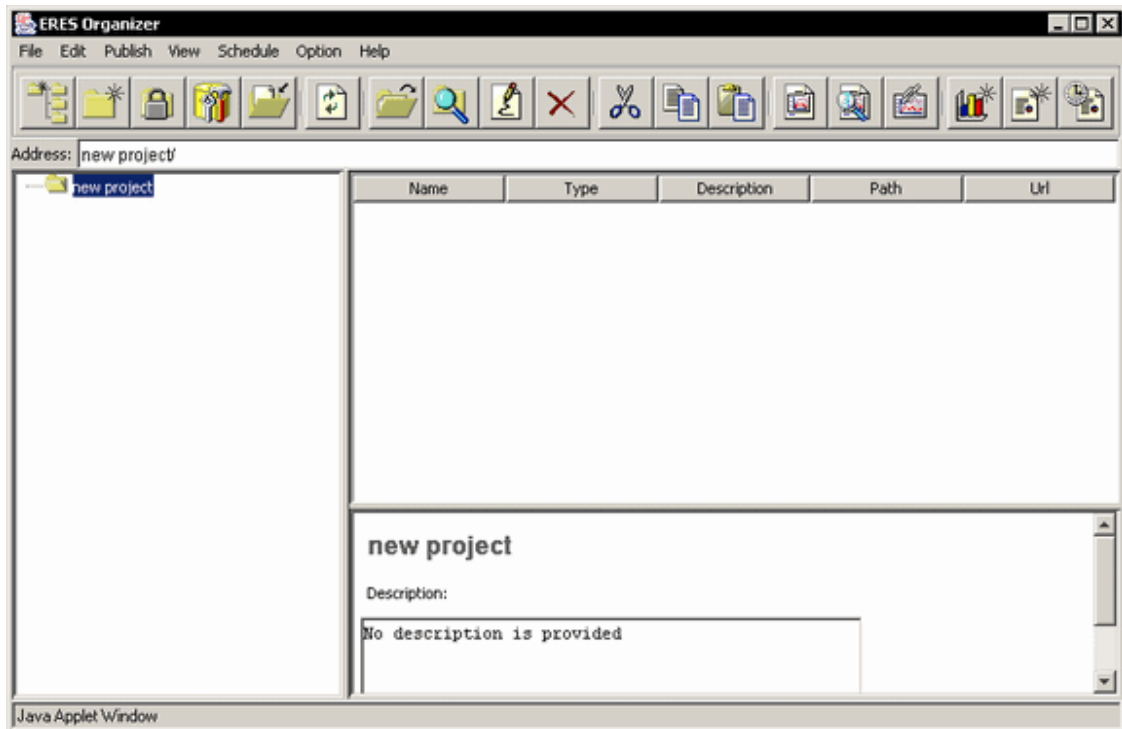
machinename はホスト名で、server port はインストール時に指定したものを 사용합니다。デフォルトのポートは 24978 です。サンプルのアドレスは「`http://persephone.quadbase.com:24978/index.html`」のようになります。スタートアップ・ページがオープンします。



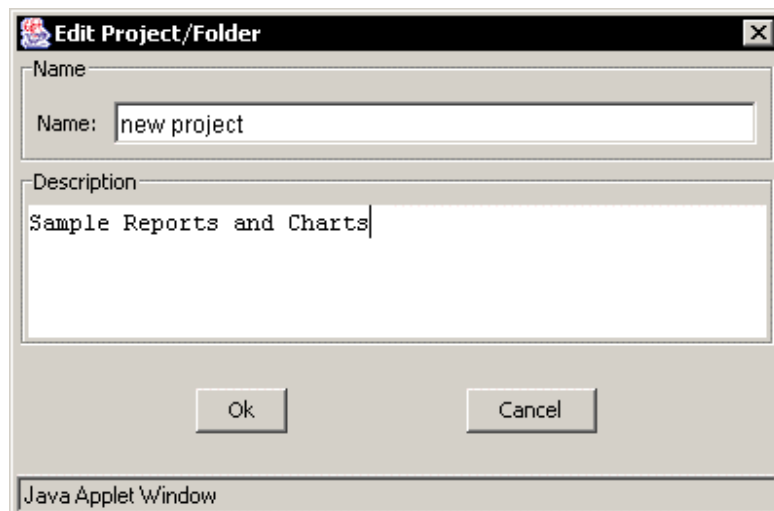
このスクリーンから ERES のすべてのコンポーネントをアクセスできます。Organizer をスタートさせるには左側メニューの「Start Organizer」をクリックします。新しいページがログイン・ボックスとして開きます。



ユーザ名は「guest」とタイプし、パスワードはblankにしてください。「Start Organizer」ボタンをクリックすると Organizer が開きます。またインストールのルートディレクトリから「ERESOrganizer」のバッチファイルを実行することで Organizer をスタートすることが出来ます。




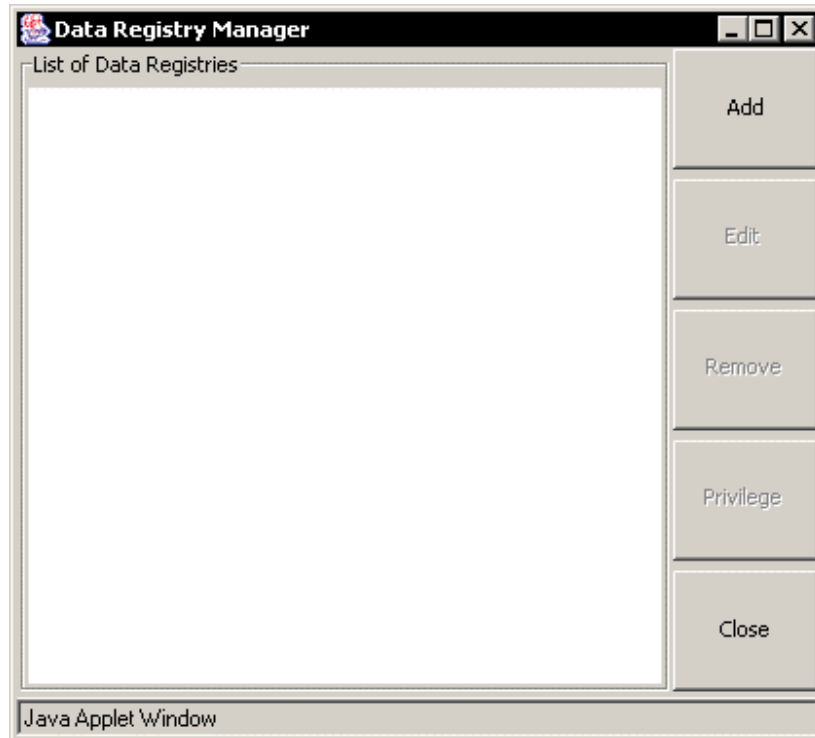
Organizer はユーザがチャートを作成、管理、組織化する為のバーチャルなファイル管理システムです。Organizer の詳細な機能につきましてはユーザガイドの Ch3 を参照ください。最初にオープンした時にはインターフェイスはblankで「new project」というラベルのフォルダが1つだけです。プロジェクト(project)名を変更する時は右クリックを行い、ポップアップメニューから「Edit」を選択します。Project 名変更のダイアログが現れ、概要を記述できます。



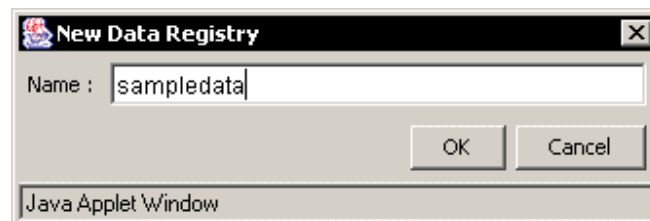
### Step 3: Set up Data Sources

レポートやチャートを作成する前に、使用するレポートやチャートのデータソースを最初に設定する必要があります。データソースを設定するにはツールバーの「Manage

Data Registries」アイコン  をクリックします。これによりデータレジストリ・マネージャ・ダイアログをオープンします。



見て判るように、xml データソース・レジストリはまだありません。新たにレジストリを作成する必要があります。右上の「Add」をクリックします。これによりダイアログが現れ、新しいレジストリに名前を指定できます。

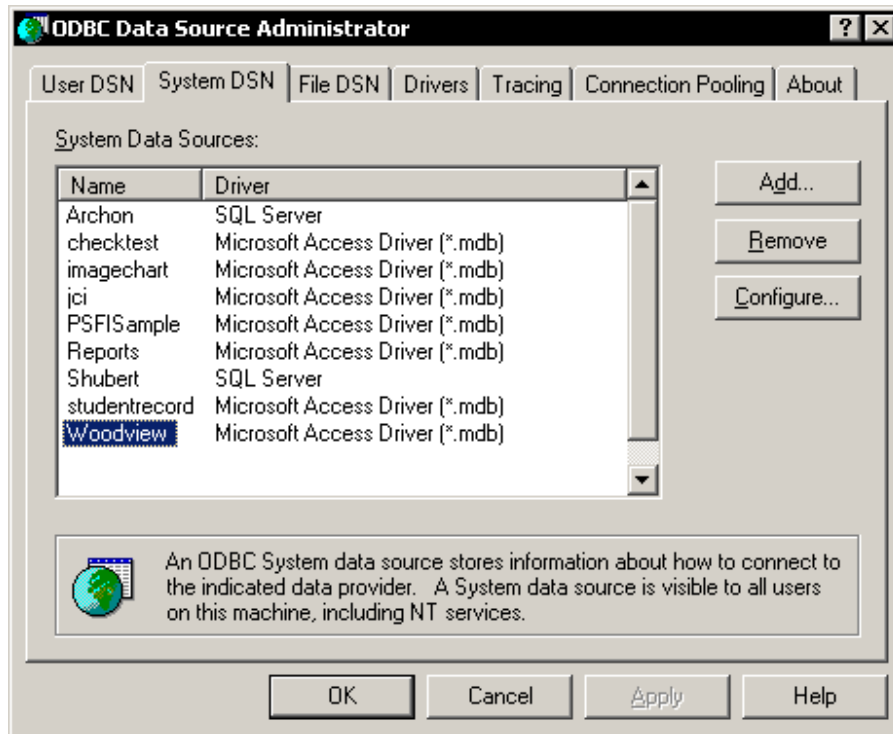


入力後「OK」をクリックして新たなレジストリを追加します。入力名はレジストリ・リストに現れ、新しいウィンドウが開きます。このウィンドウが「Data Source Manager」で、レジストリの為のデータソースを設定できます。



次にデータベース・接続の設定を行います。このために「Database」ノードを選択し、「Add」ボタンをクリックします。これにより接続（接続）情報を指定する為の新たなウィンドウが開きます。このケースではすでにインストール時に含まれている「Woodview Access database」に接続します。この為にあず、Woodview をシステムの DSN として設定します。

これを実行するために、NT/2000 のコントロールパネルから ODBC ドライバを実行させます。それからユーザまたはシステム DSN に追加します。MSAccess をデータベースドライバに選択して、「Woodview」をデータソースの名前として指定します。ERES インストールで webapps/ROOT/help/examples/database 下で見つけた Woodview.mdb ファイルをブラウズします。このファイルを選択します。Woodview がシステム DSN かユーザ DSN タブでの新たなエントリとして見つかります。



DSN が設定されたら、ERES でのデータソースとして Woodview データベースを設定します。データソースを設定するにはデータソース・ダイアログに次の情報を入力します。

**Name:** Woodview  
**URL:** jdbc:odbc:Woodview  
**Driver:** sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver  
**User Name:** admin  
**Password:** admin



これで「OK」をクリックし、新たなデータベースのノードがデータソースマネージャ・ウィンドウに追加されました。


次にテキストデータソースを設定します。この例ではインストール時に含まれている sample.dat ファイルを使用します。このファイルを追加する為にデータソース・マネージャ・ウィンドウに TXTFiles ノードを選択し、「ADD」ボタンをクリックします。これで名前と使用したいテキストファイルの位置を指定する為のダイアログが現れます。

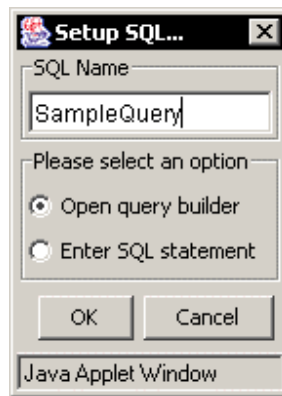


データソースとして使用したい名前を指定できます。（これは表示目的の為だけに使用されます。）「Browse」ボタンをクリックし、sample.dat ファイルを選択します。それは webapps\ROOT\help\examples\data ディレクトリにあります。終わったら「OK」をクリックし、テキストソースはデータソース・マネージャ・ウィンドウに追加されます。データソースについてはユーザガイドの Ch4 を参照ください。

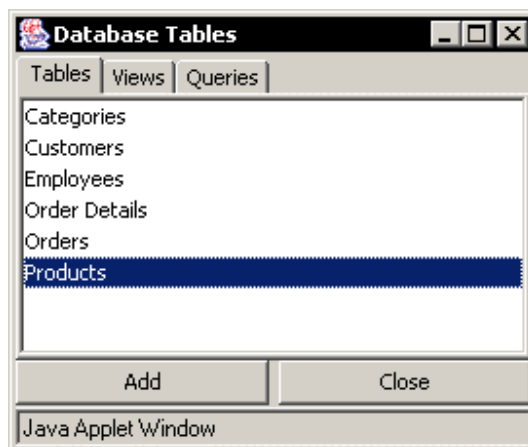
#### Step 4: Create a Report

これまでに2つのデータソースを追加し、データソース・マネージャ・ウィンドウの「Done」をクリックし、Organizer ウィンドウに戻るためにレジスターウィンドウの「Close」をクリックします。ReportDesigner を起動させるために Organizer から「New

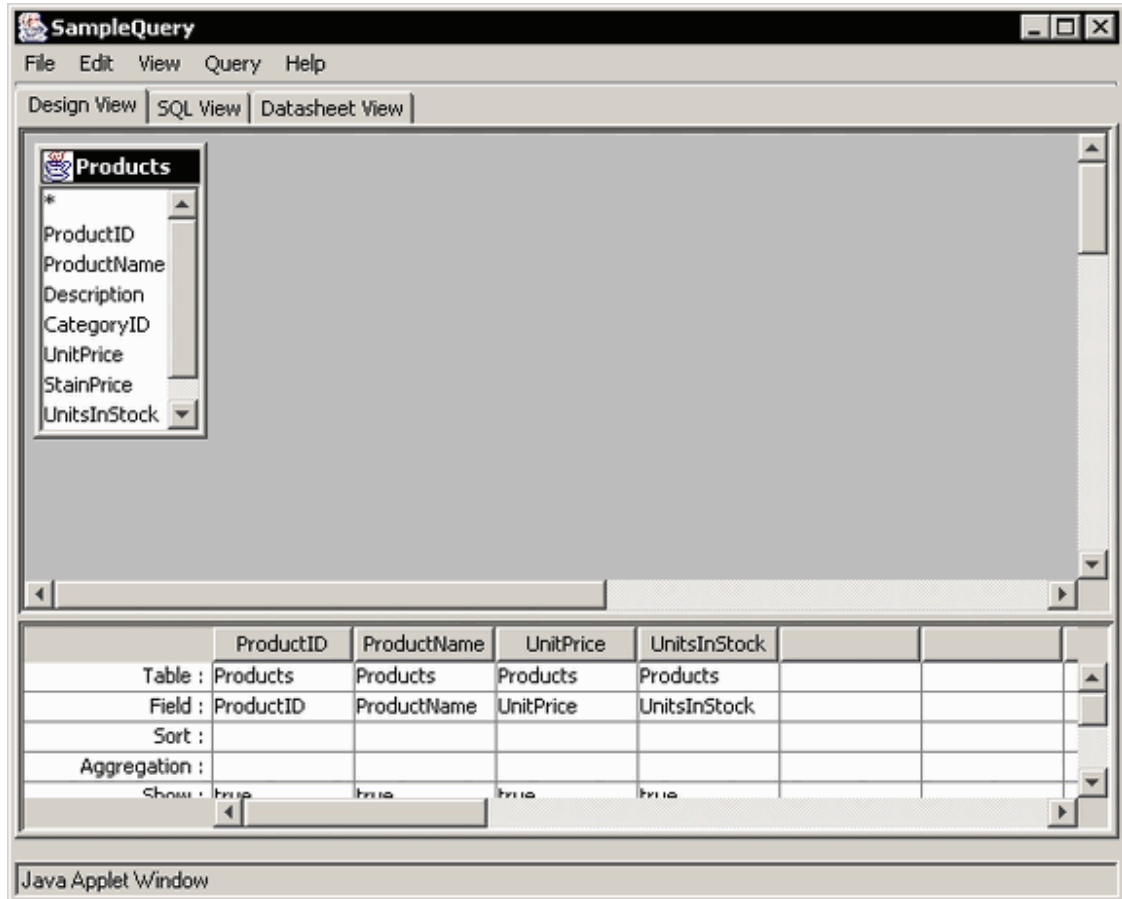
Report」アイコン  をクリックします。データソース・マネージャからレポートの為のデータソースの選択が出来ます。このウィンドウからレポートのためのクエリを作成します。これを行うためにすでに設定した Woodview データベースのためのノードを拡張します。これにより2つの新しいノードのオープンが可能となります。1つは「Queries」とラベルされ、もう1つは「Data Views」とラベルされます。Queries ノードを選択し、「ADD」ボタンをクリックします。クエリの為の名前を指定するダイアログ・ボックスが現れ、SQL ステートメントでタイプするか、クエリ・ビルダ (Query Builder) を使用するかどうかになります。



このウィンドウの「OK」をクリックし、クエリ・ビルダをオープンします。最初のウィンドウはデータベースからテーブルのリストを含んでいるのが判ります。「Product」とラベルされたテーブルをクリックし、「Add」ボタンをクリックします。それからテーブル・ダイアログをクローズさせるために close ボタンをクリックします。

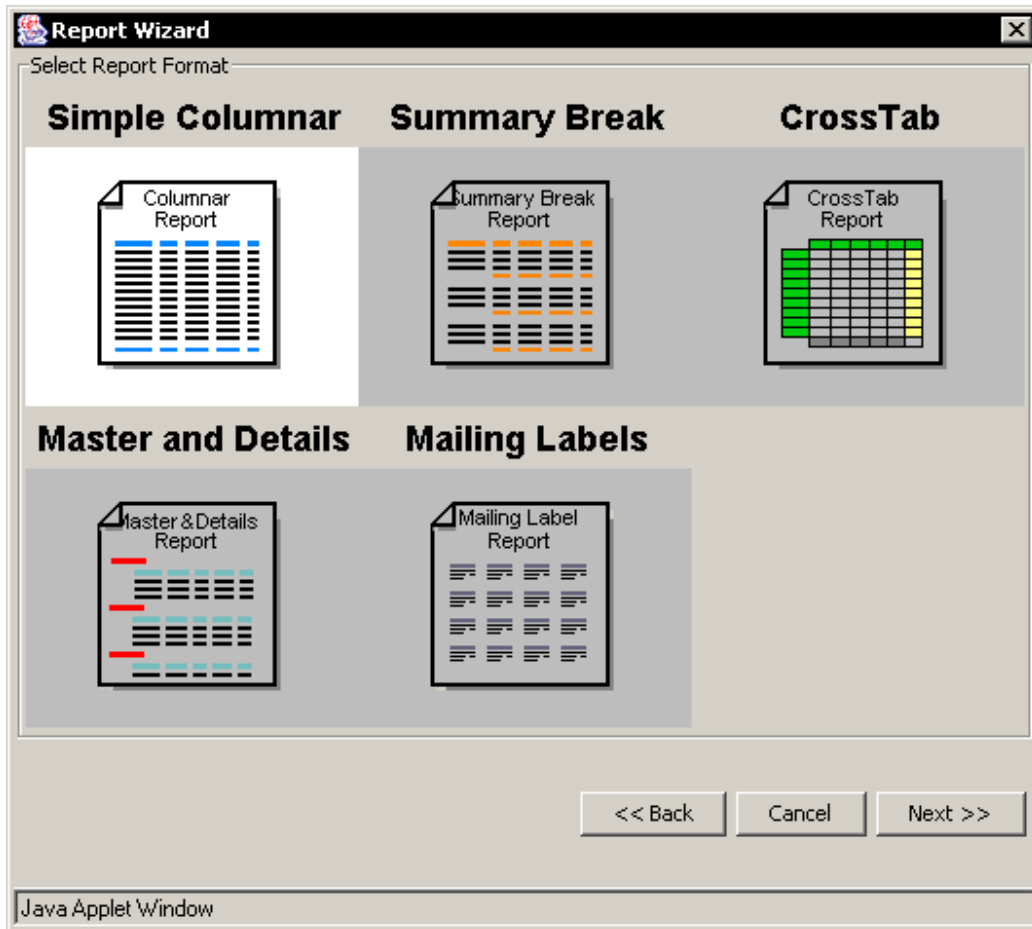


メイン・クエリビルダ・ウィンドウが開きます。ウィンドウは選択した products テーブルを上部パネルに持っています。クエリの ProductID, ProductName, UnitPrice, UnitsInStock に追加する為にテーブルのそれぞれのフィールドをダブルクリックします。追加されたフィールドはクエリ・ビルダ・ウィンドウの下半分に現れます。

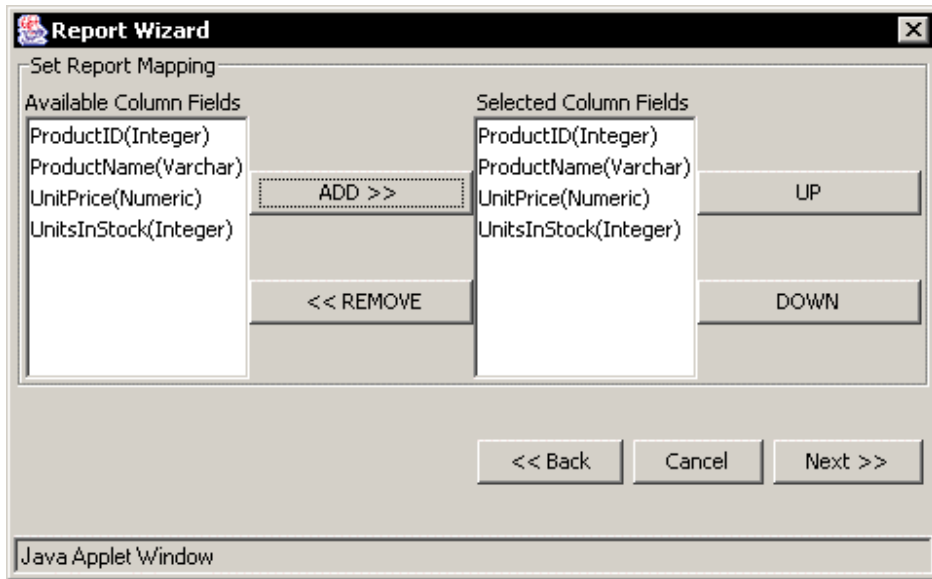


「Datasheet View」タブをクリックしてクエリのテストが出来ます。これでクエリを実行して、結果を見ることが出来ます。クエリのセーブは「File」メニューから「Done」を選択し、クエリビルダをクローズします。

データソース・マネージャ・ウィンドウに戻るとそのクエリの名前とクエリの基に新たなノードがあります。それを選択し、「Next」をクリックします。次のウィンドウにはクエリによって戻された最初の 20 レコードがあります。このウィンドウの「Next」をクリックします。次のウィンドウではレポートの為に別のデータソースを希望するかどうかを尋ねます。「Process Data」を選択し、「Next」ボタンをクリックします。これにより作成したいレポートタイプを選択するためのダイアログが現れます。

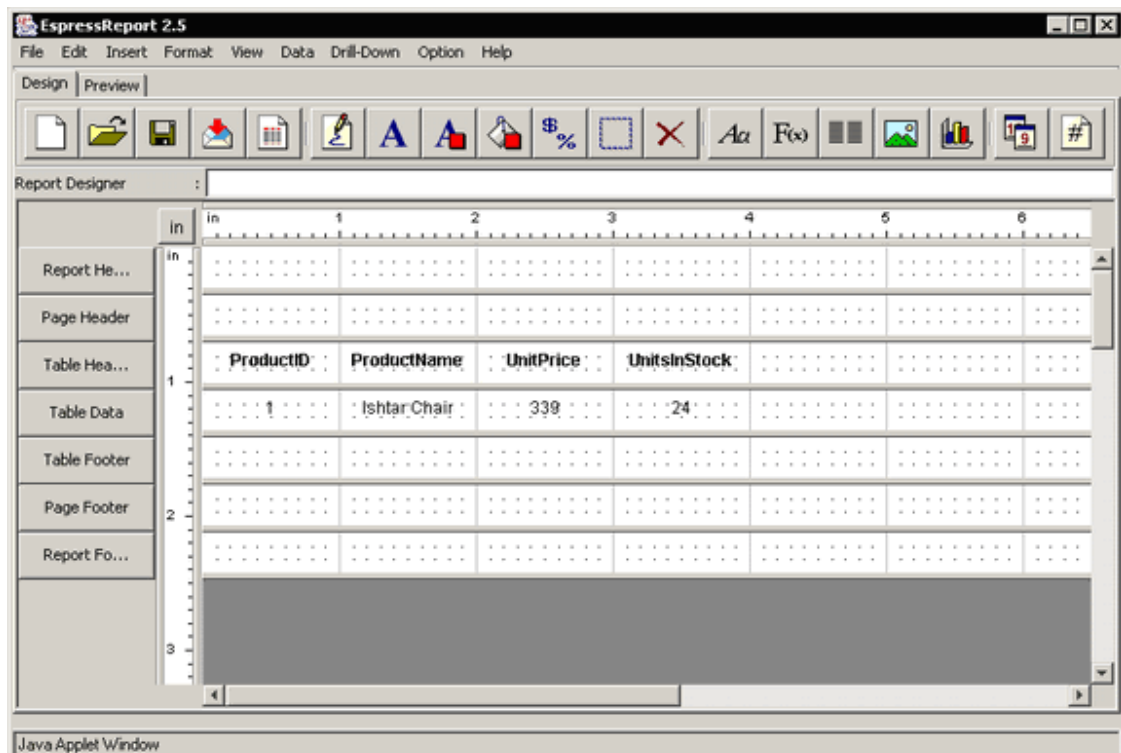


このウィンドウから「Simple Columnar」を選択し、「Next」ボタンをクリックします。次のスクリーンではレポートに使用したいコラム・フィールドの選択が出来ます。左サイドにあるすべて4つのフィールドをクリックしてレポートに追加し、「Add」ボタンをクリックします。複数を選択する時は shift+クリックを使用することが出来ます。



レポートのフィールドを選択した後、「Next」ボタンをクリックします。これにより、スクリーンでレポートのデータマッピングの設定が可能となります。simple columnar reportのオプションは複雑ではありません。コラムのすべてが見えるように設定されていることを確認して「Next」ボタンをクリックしてください。

これによりレポートウィザードを終了し、レポートの未フォーマット・バージョンへ移れます。



判るように作成したレポートはまだラフなものです。しかし、プロ並みのレポートに仕上げることは難しいことはありません。最初に行うことはレポートページの中央にコラムを移動させることです。このためにツールバーからグループ選択の為のアイコン



をクリックします。それからコラムの周りにボックスを描くようにクリックアンドドラッグをします。マウスをリリースした時にそれらはハイライトしているはずですが、


ProductID	ProductName	UnitPrice	UnitsInStock
1	Ishtar Chair	339	24

ProductID	ProductName	UnitPrice	UnitsInStock
1	Ishtar Chair	339	24

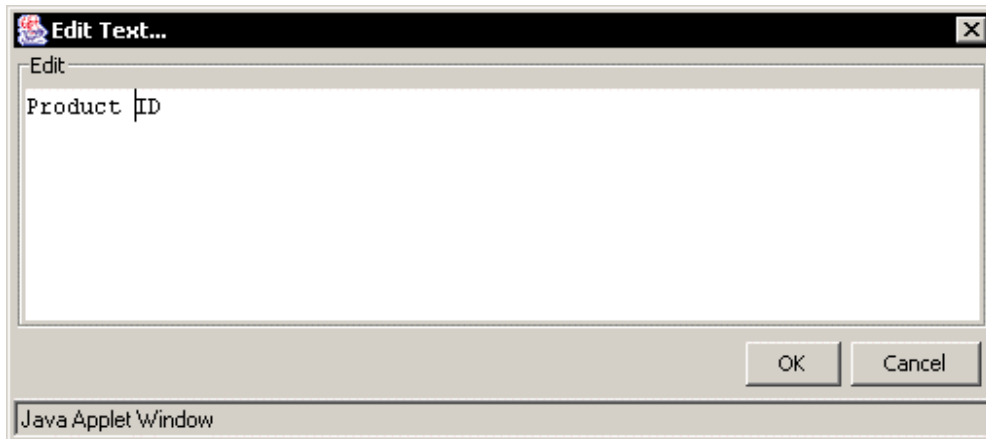
はムーブアイコンに変わります。マウスボタンを押したまま、グループを約1インチ（約2.5cm）右へドラッグドラッグします。Preview で見た時にコラムはページ内でほぼセンターに移動したのがわかります。次はコラム・ラベルのカスタマイズです。

ERES は simple columnar レポートではデータベースのコラム名を使用してコラム・ラベルの生成を行います。最初にフォントを変更します。これを行う為にはグループ選択ツールをまた使用します。しかし、今回はコラム・ラベルの選択のみです。

次にツールバーから「Font Style & Size」アイコン  をクリックします。フォントスタイル、フォーマット、サイズの変更の為のダイアログが現れます。

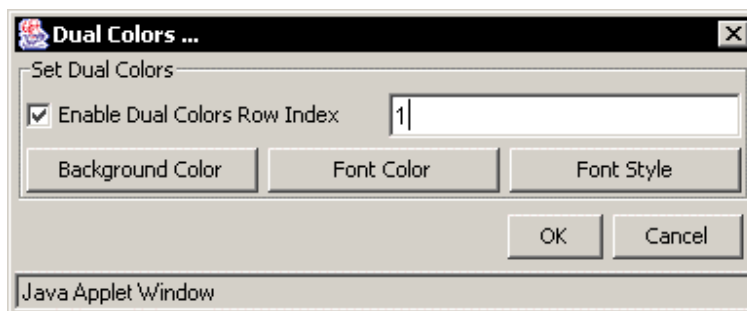


フォントに「Serif」と「Bold」、サイズに14ポイントを選びます。「OK」をクリックしてコラムヘッダーでフォントタイプが変わったのを確認します。ラベル・テキストの編集を行います。「ProductID」をダブルクリックします。ラベルの内容を変更する為のダイアログが現れます。「Product」と「ID」の間にスペースを入れ、そして「OK」をクリックします。変更はデザインウィンドウの中に現れます。

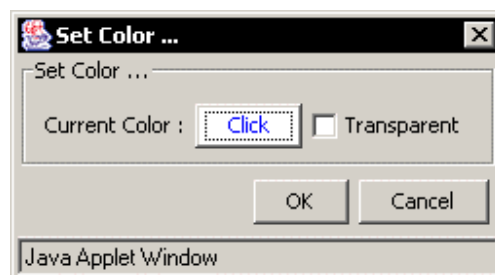


次にコラム・ローの色の二重バンドを指定します。これを使用するためにはまたデザインウィンドウのコラム・フィールドのみを選択してグループ選択ツールを使用します。

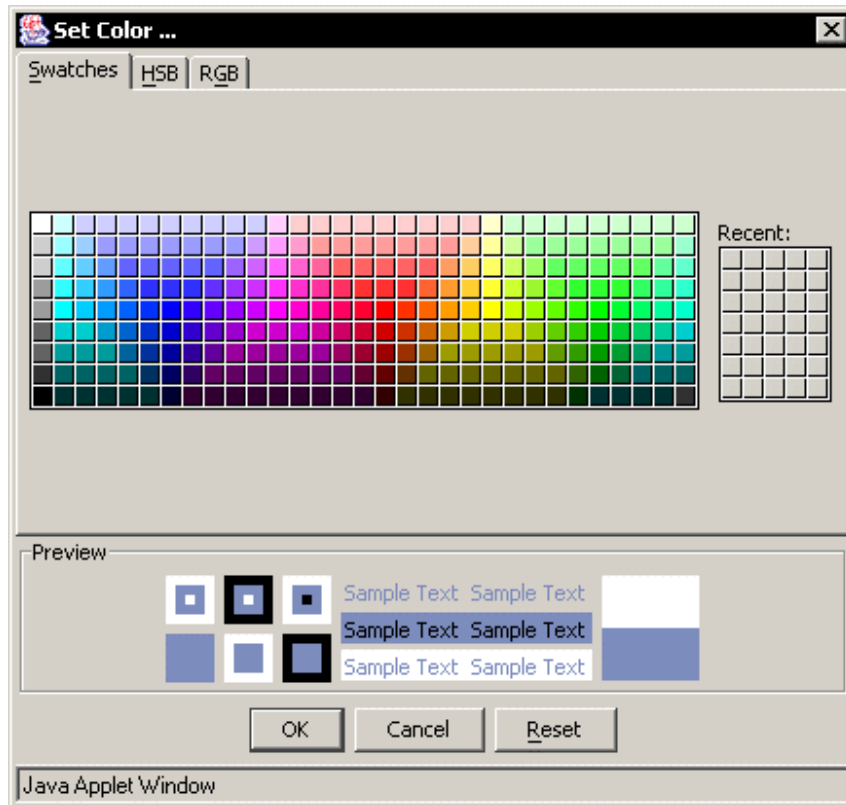
次に「Format」メニューから「Dual Color」を選択します。デュアルカラーモードを設定する為のダイアログが現れます。「Enable Dual Colors」とラベルされたボックスをクリックします。次に「Row Index」ラベルされたフィールドに「1」を入力します。



次に「Background Color」をクリックします。バックグラウンド・トランスペアレントを設定するオプションと現状のバックグラウンドカラーを示すダイアログが現れます。




「Click」とラベルされたボタンをクリックします。そうすると新たなバックグラウンド・カラーを選択する為のカラー見本が新たなダイアログとして現れます。

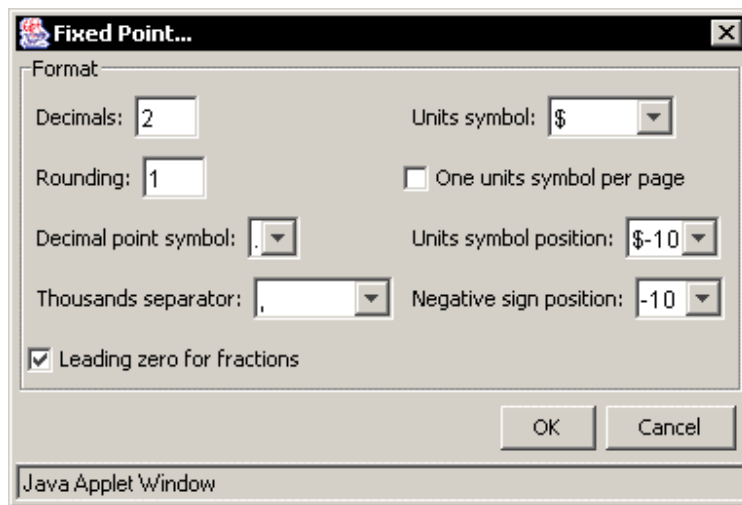
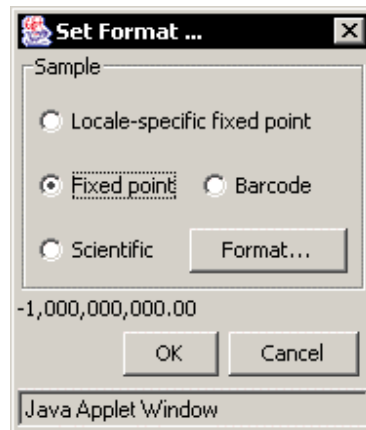


使用したいバックグラウンドカラーを選択し、「OK」をクリックします。すると最初のダイアログに戻り、そこでは選択したカラーが反映されています。また「OK」をクリックし、「Dual Colors」に戻ります。もう一度「OK」をクリックしデザインウィンドウに戻ります。変更したすべてがデザイン・ウィンドウに現れてはいませんが、「Preview」タブをクリックするとコラム・ローのカラーの選択できるバンドが表示されています。

Product ID	Product Name	Unit Price	Units In Stock
1	Ishtar Chair	339	24
2	Shamash Chair	449	4
3	An Chair	425	14
4	Enlil Chair	450	12
5	Enki Chair	425	45
6	Ninhursag Chair	369	12
7	Nergal Chair	335	25
8	Zabada Chair	312	40

次に unit price field のデータのフォーマットを行います。デザインウィンドウに戻り

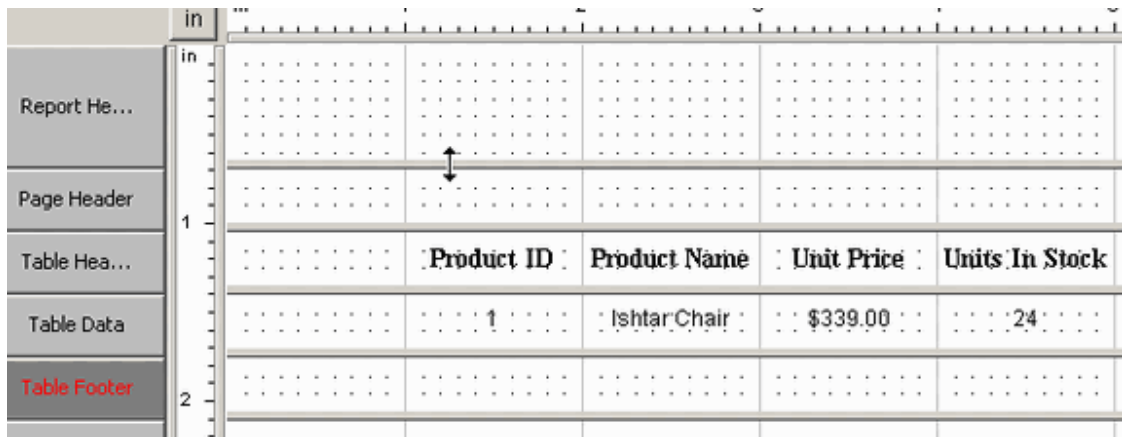
「Unit Price」コラムを選択します。ツールバーから「Data Format」アイコン  をクリックします。ダイアログが表示され、locale-specific, fixed point, scientific フォーマットの指定かと聞いてきます。「Fixed Point」を選択し、「Format」をクリックします。フォーマット・オプションのための次のダイアログが現れます。Decimal (10進方)の数値に2を入力し、unit symbol に\$を選択します。




「OK」とクリックし、最初のダイアログに戻ります。再度「OK」をクリックするとデータはドル値を反映するようになります。

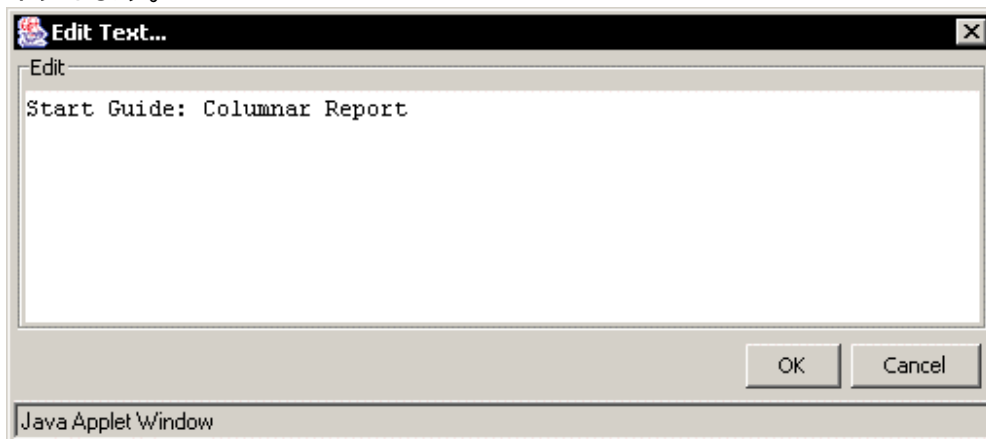
ne	Unit Price	U:
...	\$339.00	...
...	.....	...

次に Report Header セクションにレポートのタイトルを挿入します。そのためにはセクションの高さを広げる必要があります。マウスを Report Header セクションの下部セクション・ディバイダの上に持って行き、セクションを半インチ（約 1.2cm）高くするようにドラッグダウンします。



次にレポートのタイトルを挿入します。挿入ラベルアイコン  をクリックします。小さな長方形がデザインウィンドウの周りでマウスポインターにしたがって現れます。

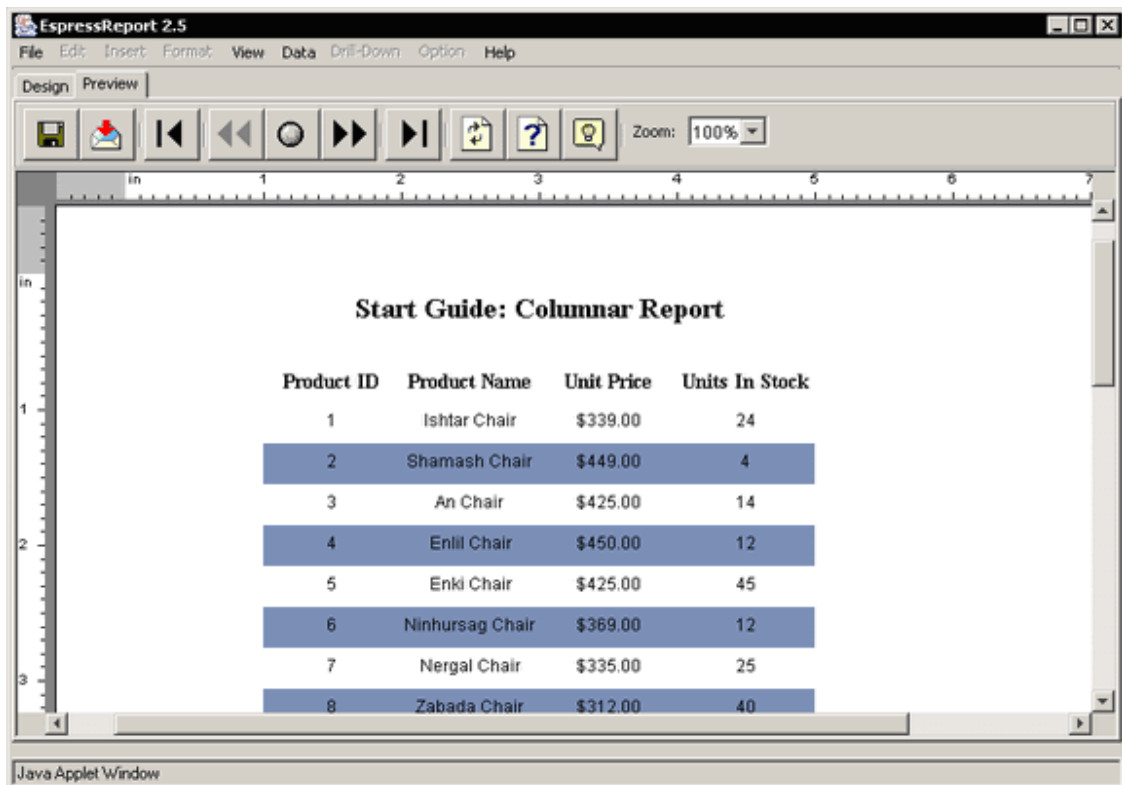
「Report Header」セクション内の「ProductID」の上にその長方形を置き、クリックします。するとラベル・テキストの入力の為のダイアログが現れます。好きなタイトルをタイプします。




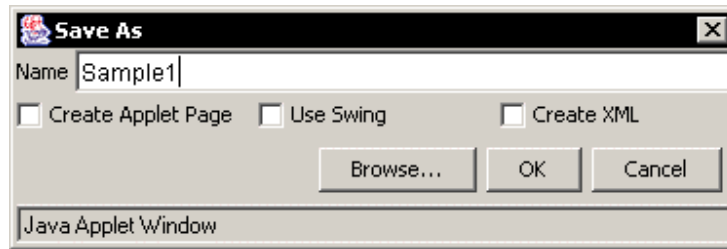
「OK」をクリックするとレポート内にタイトルが現れます。次にタイトルを選択し、フォントスタイルとサイズをツールバー・ボタンを使用して、フォントサイズを 20 ポイントに、フォントスタイルを「Serif」に変更します。次にレポートタイトルを含むセルのサイズを変更します。サイズ変更をする為にセル内で右クリック、右へのドラッグを行います。セルの幅がすべてのコラムと同じようになるように、そしてタイトルが中央になるようにドラッグします。

Start Guide: Columnar Report			
Product ID	Product Name	Unit Price	Units In Stock
1	Ishtar Chair	\$339.00	24

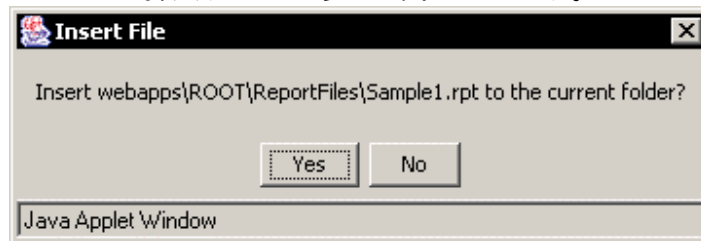
これでレポートのフォーマットが終わりました。これ以外にも多くのフォーマティングに関するオプションがあります。このガイドでは2つの例の紹介に限定してあります。作成したレポートを「Preview」タブをクリックしてプレビューが可能です。



ツールバーの「Save」アイコン  をクリックしてレポートを保存できます。これにより、レポート名を指定する為のダイアログが開きます。




レポートの名前を付けて「OK」をクリックします。新たなダイアログが Organizer の現状のフォルダにレポートを挿入するかどうかを聞いてきます。

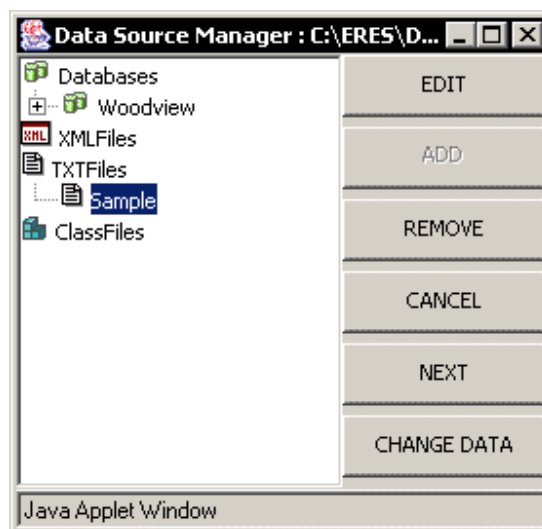


「Yes」をクリックすると Organizer のプロジェクトにレポートが追加されます。File メニューから「Exit」を選択し ReportDesigner をクローズします。

#### Step 5: Create a Chart

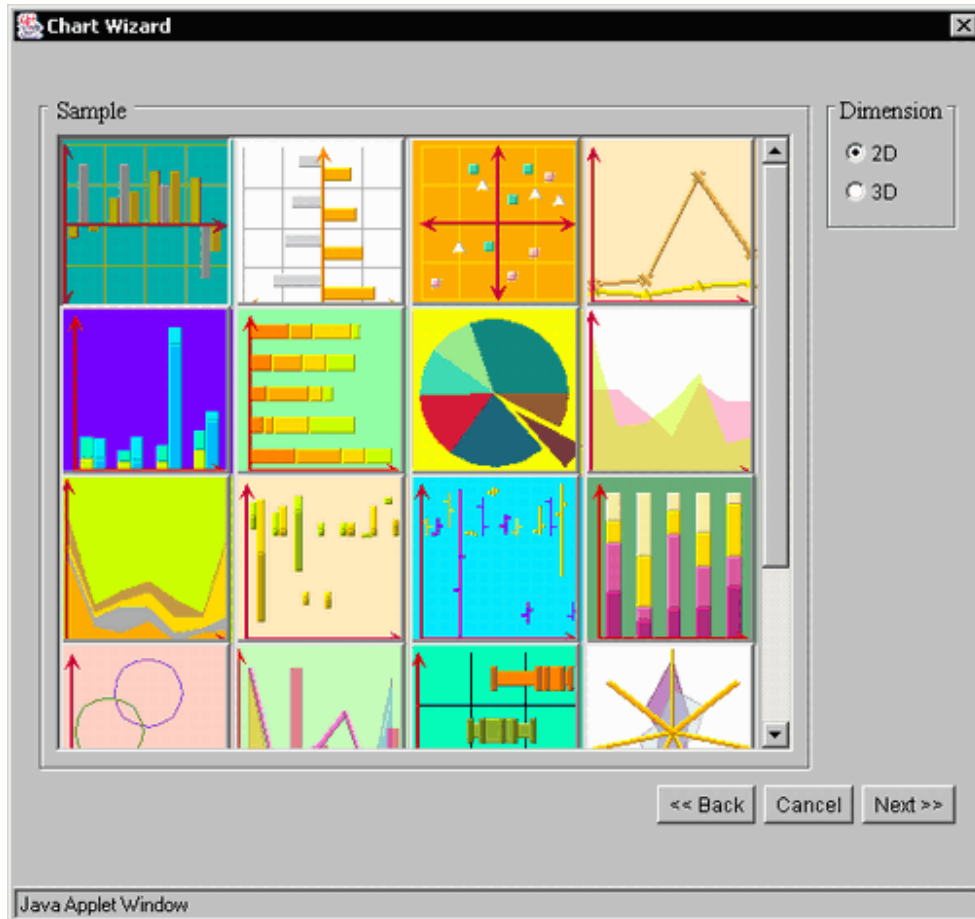
レポートが終わり、チャートを作成します。Organizer のツールバーから「New Chart」

アイコン  をクリックします。これにより Data Source Manager ウィンドウが開き。チャートのためのデータソースの選択を行います。このケースでは簡単に設定できるようにテキストファイルを選択します。このファイルのノードを選択し、「Next」をクリックします。

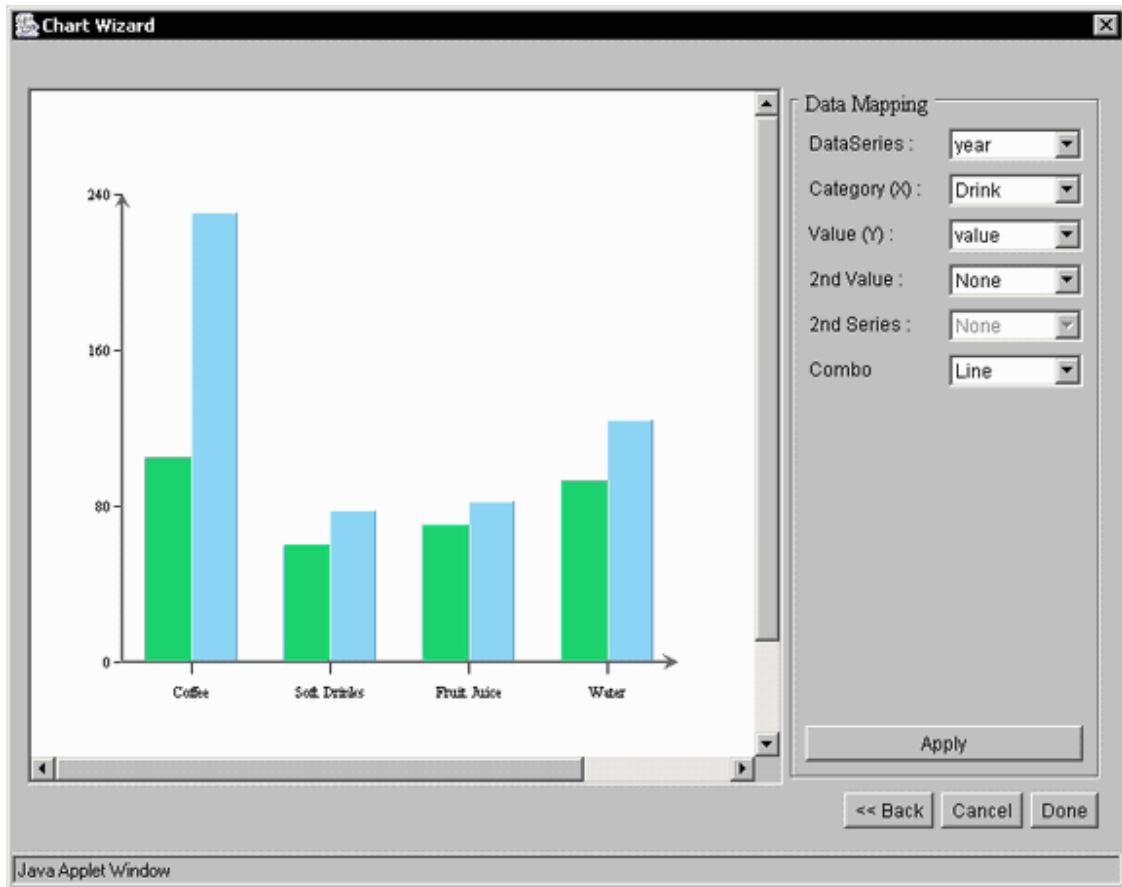


ダイアログから「Next >>」をクリックした時、このファイルのコンテンツを表示するウィンドウが開きます。「Next >>」をクリックし、他のデータソースを指定するか、

データをプロセスするかを尋ねる新たなウィンドウが開きます。「Process Data」を選択し、「Next >>」をクリックします。それからチャートタイプの選択スクリーンへ移ります。

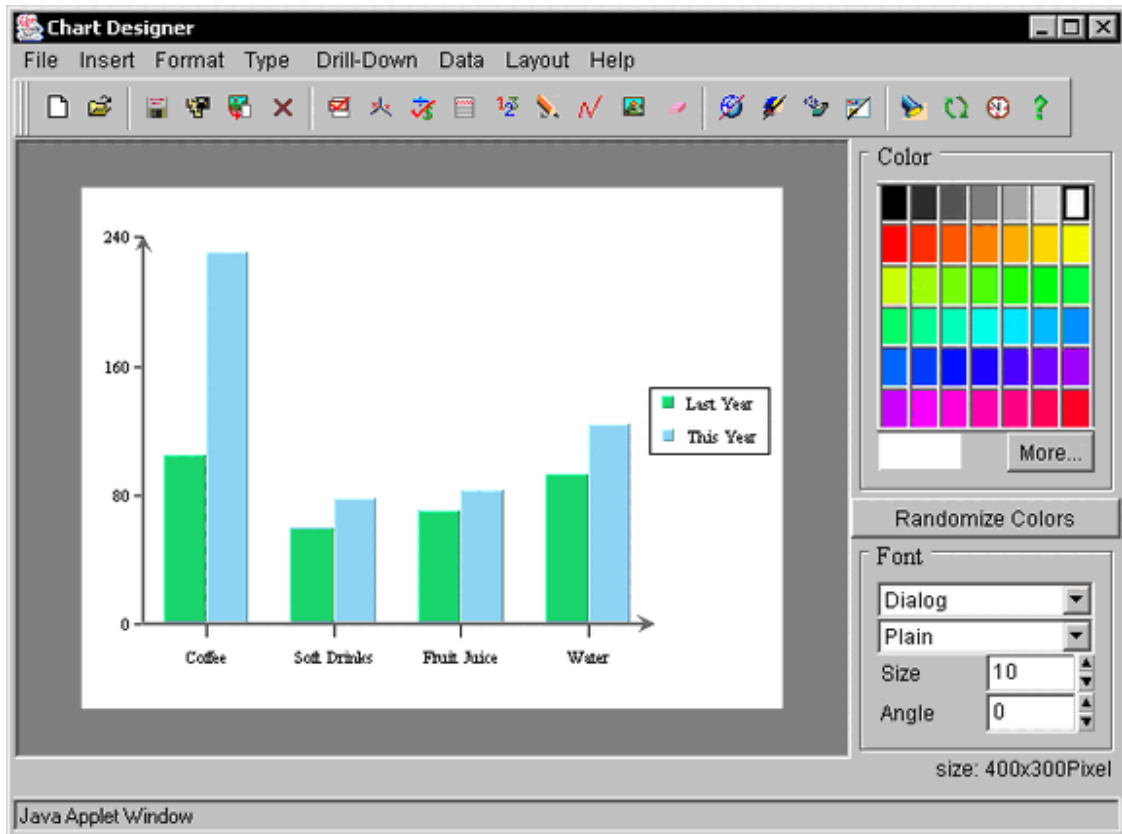


このウィンドウから使用したいチャートタイプを選択します。右上の2D,3D 選択パネルでどちらのタイプのチャートを使用するか選択することができます。2Dのコラム・チャート (Column chart) を選択し、「Next >>」をクリックします。これによりデータマッピング・ウィンドウに移動します。



このウィンドウはチャートをプロットしたいデータファイルからフィールドを選択することが出来ます。「data series」に「year」、「category」に「drink」を選択し、「value」に「value」を選択し、「2nd series」に「None」を選択します。「Apply」をクリックします。そうすると上記のようなチャートが現れます。このチャート・ウィザードを完了させる為に「Done」を次にクリックします。

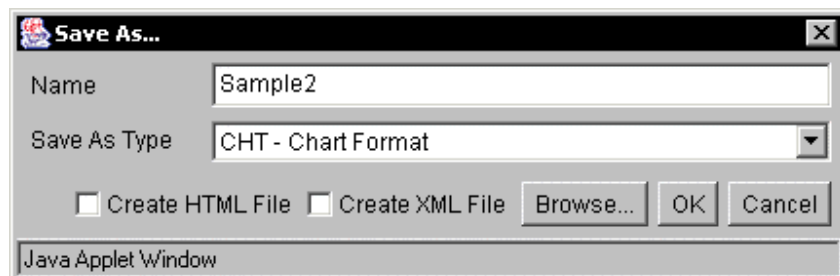
次はチャートの外観、プロパティをカスタマイズさせる為に Chart Designer ウィンドウに進みます。最初に Chart Designer ウィンドウの「Format」のドロップダウン・メニューから「Canvas」を選択します。このオプションはチャートのバックグラウンドのサイズをコントロールできます。「400x300」の canvas サイズを選択して、「OK」をクリックします。



チャートの基本的なカスタマイズが可能です。オブジェクトの色の変更は右パネルからマウスでクリックして、新しい色を選択します。フォントサイズと色を選択するには右のフロントパネルの label を選択し、プロパティーを変更します。

チャートのほとんどすべての要素を変更できます。すべての機能についてはユーザガイドの Chapter 6 に詳しく記述されています。


チャートのカスタマイズが終わったら、「file」メニューから「Save」を選択し、保存します。ファイル名とフォーマットを指定するようにダイアログが現れます。デフォルトではサーバ・ルート下の ChartFiles ディレクトリにチャートはセーブされます。チャートの名前をタイプし、「Ok」をクリックします。

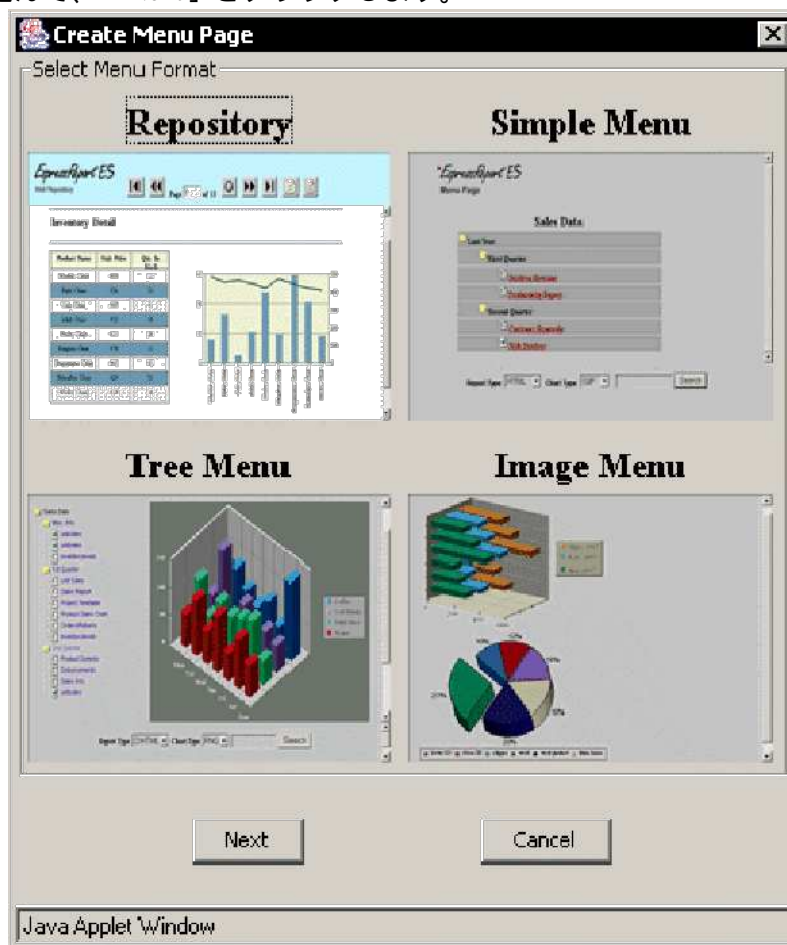


ファイルの保存後に現在の Organizer フォルダにチャートを挿入したいかどうかを尋ねるダイアログが現れます。「Yes」をクリック。それから、File メニューから Exit を選択して、Chart Designer をクローズします。Organizer の project 内にチャートが現れます。

### Step 6: Create a Menu Page

ERES はメニューページからチャートとレポートを作成できます。メニューページはアプレット同様に PDF/HTML/イメージファイルとしてチャートとレポートを提供できる完全な Web ページです。メニューページを作成する為には Organizer の自分のプロジェクトを

選択し、ツールバーからメニューページのアイコン  をクリックします。どのメニューのスタイルを選ぶかを聞いてくるダイアログがオープンします。「Repository」（意味：貯蔵所）を選んで、「Next」をクリックします。



メニュースタイルの選択後。メニューページのオプションを設定する為の新たなダイアログが開きます。このウィンドウでメニューの為の名前をタイプし、「Set Password」を再選択し、「Export Image Options」で CHT と PNG を選択します。（これによりメニューページはチャートを PNG イメージまたはアプレット内で表示できます。）「Export Report Options」で DHTML と PDF に選択で来ます。詳しくはユーザガイドの Ch7 にメニューページのすべてのオプションが説明されています。

File Name  
Enter the output file name  
Sample Browse...

Password  
Enter password  
Retype password  
Set Password

Optional Features  
 Use Output Buffer  
 Optimize Memory  
 Enable Search Function

Menu Logo  
 Actual Path  
s:\ROOT\Web\_Component\eres\logo.gif Browse...  
 Address (URL)  
http://

Export Image Option  
 CHT  JPEG  GIF  PNG  PDF

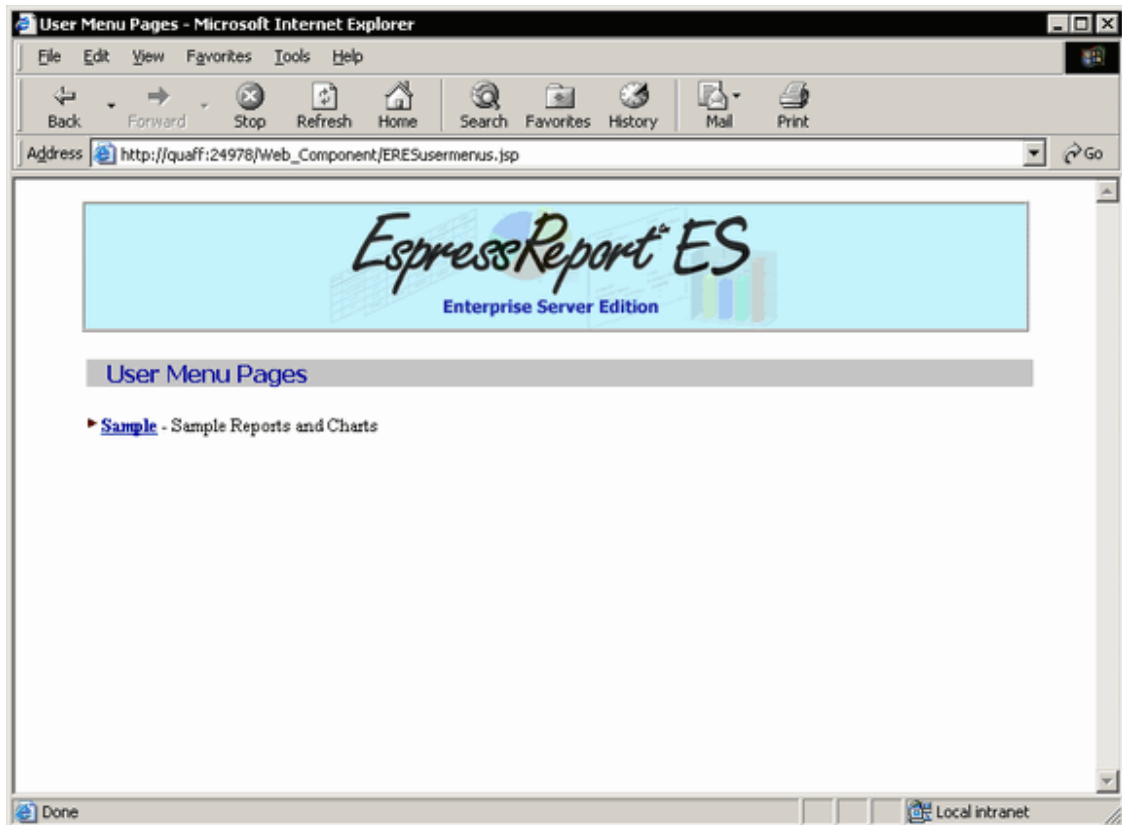
Export Report Option  
 RPT  DHTML  HTML  PDF  XLS

Chart Viewer Option  
 Default  Mini  Micro

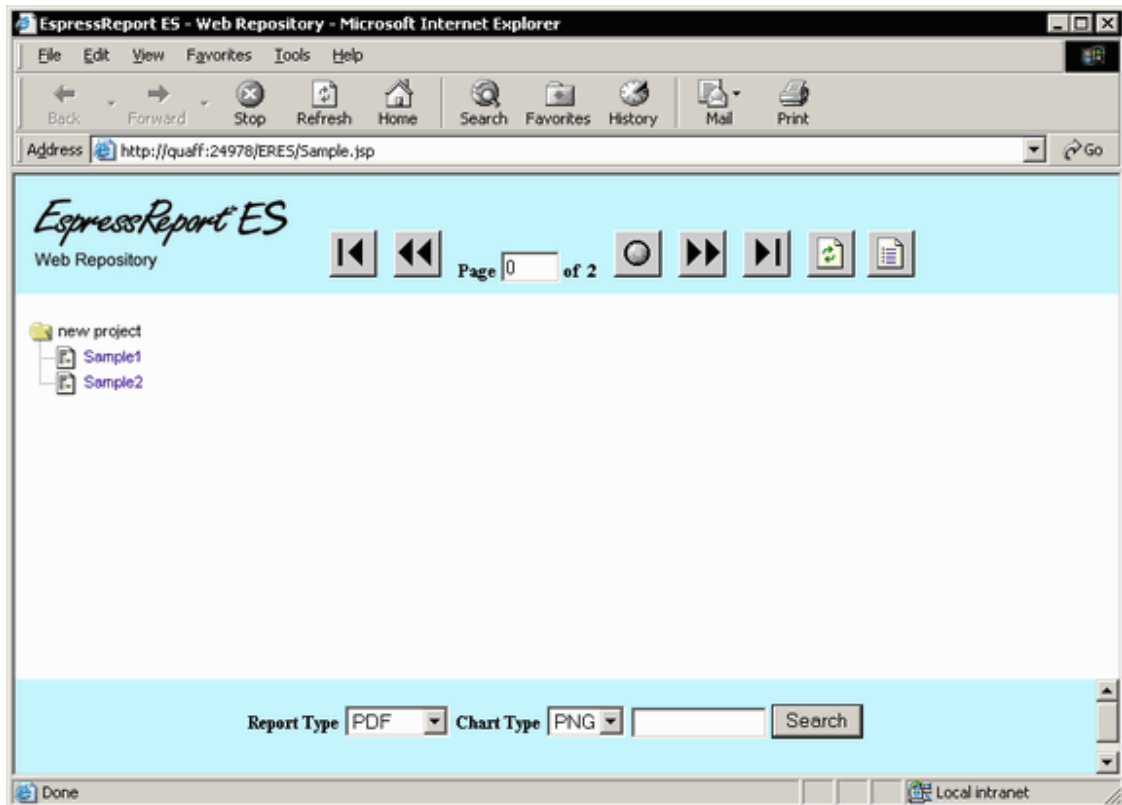
Back OK Cancel Set Page Properties Set Report Options Set Image Options

Java Applet Window

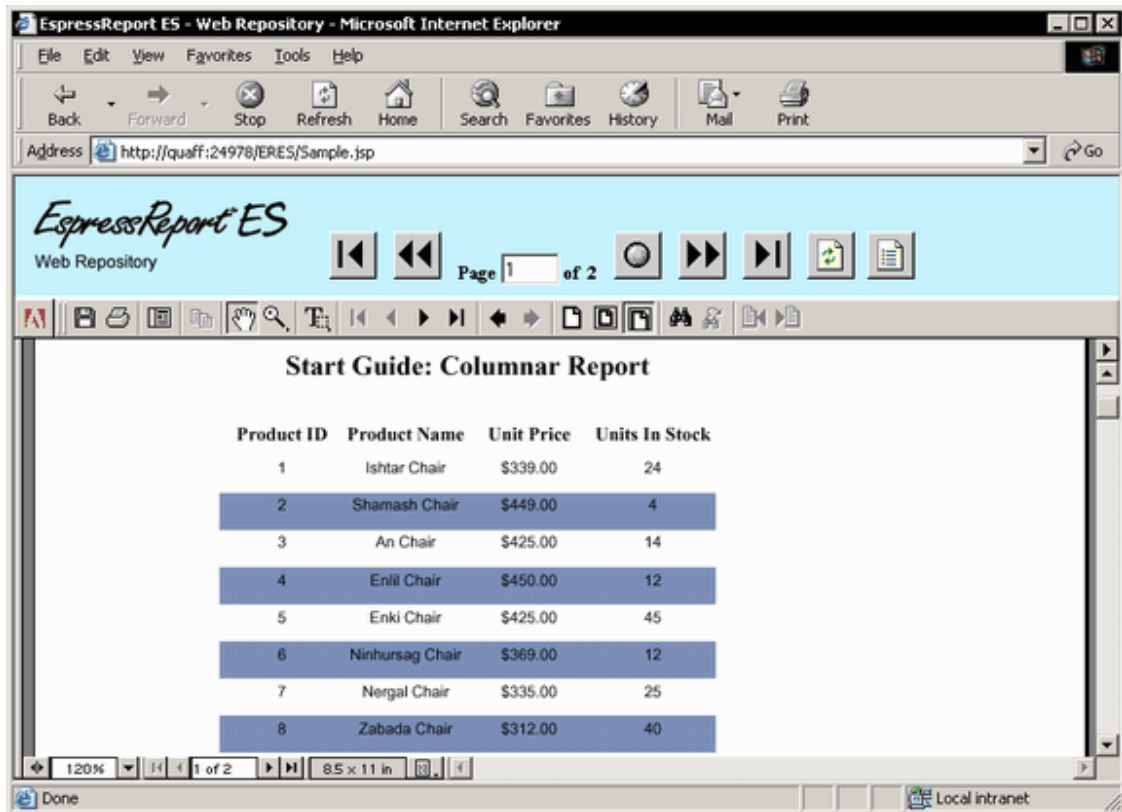
メニューページのオプションを設定後に OK をクリックし、メニューページは生成されます。今、ブラウザウィンドを開き Step2 で説明した ERES スタートアップページを示しています。左側メニューの「See User Menus」とラベルされた最後のリンクをクリックします。新たなページが開き、先ほど作成したメニューページへのリンクが判ります。




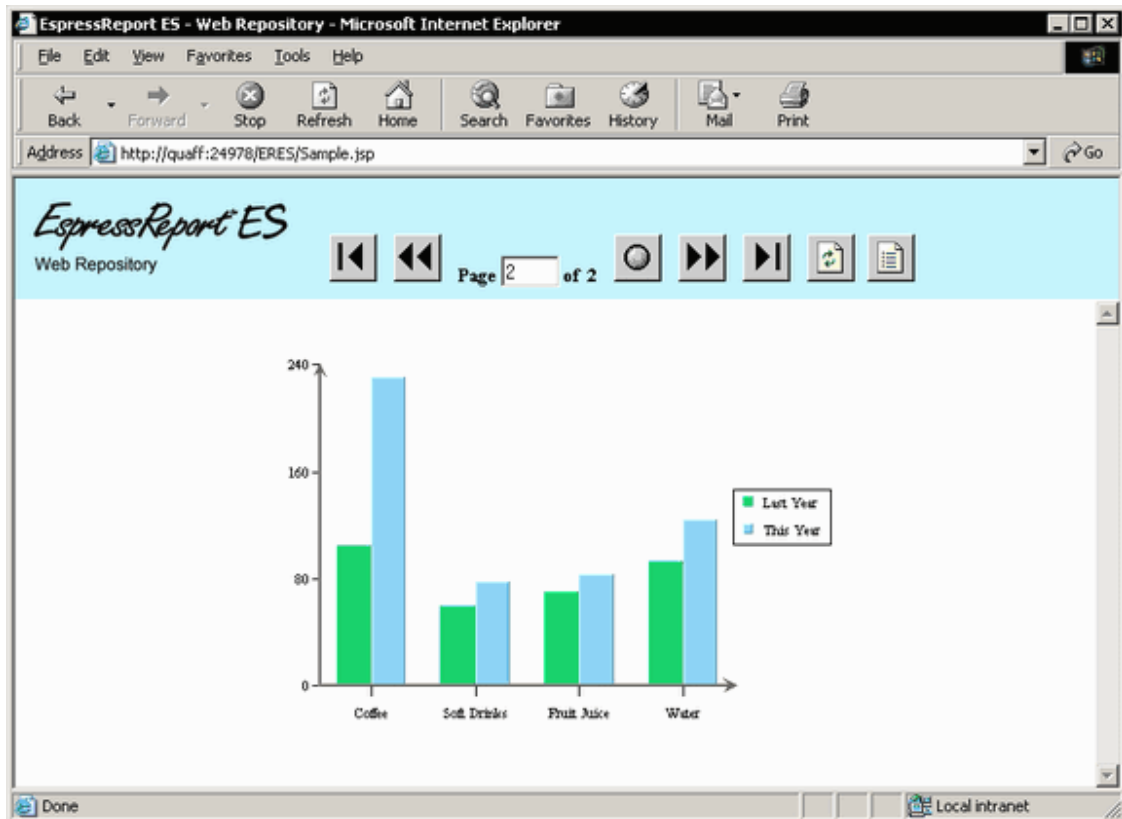
そのリンクをクリックすると先ほどのメニューページが新たなウィンドウとして開きます。(また Organizer からツールバーの Preview Menu アイコンをクリックすることでメニューページのプレビューが可能です。)メニューページはコンテンツのテーブルでオープンします。メニューのトップでのナビゲーション・バーでプロジェクト内のすべてのオブジェクトをナビゲートが可能です。それとオプションを含むボトム・フレームでサーチ・ボックス同様にレポートとチャートのフォーマットの選択が可能です。



下部のフレームからレポートのタイプとしてPDFを選択し、チャートはPNGを選択します。Step 4で作成したレポートのリンクをクリックします。メインウィンドウ内でレポートのPDFファイルを生成します。




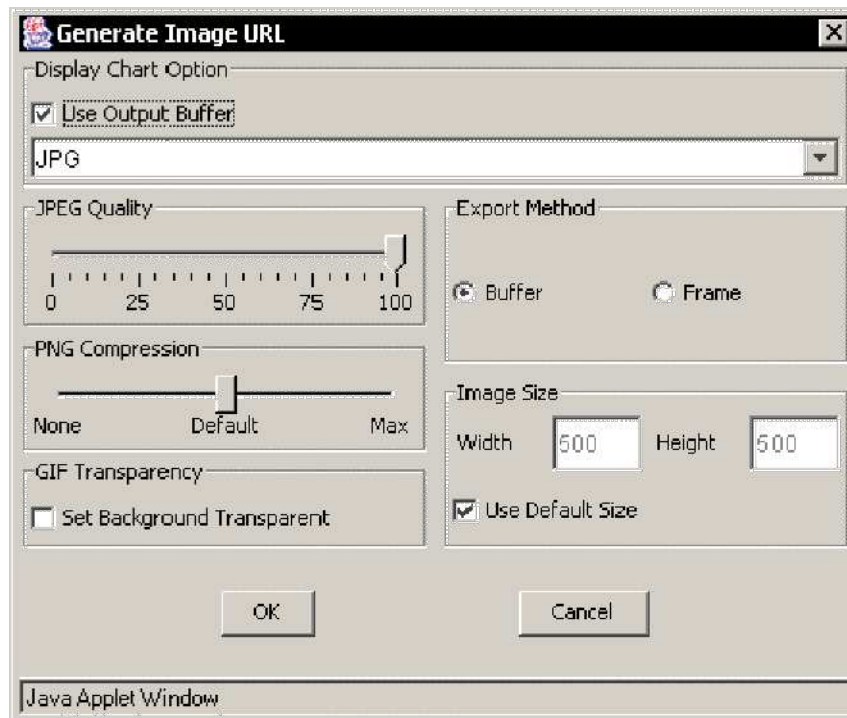
ウィンドウの上部でナビゲーション・バーの「Next」をクリックします。これでプロジェクトの次のアイテムに移行します。（この場合、チャートは作成されていません。）



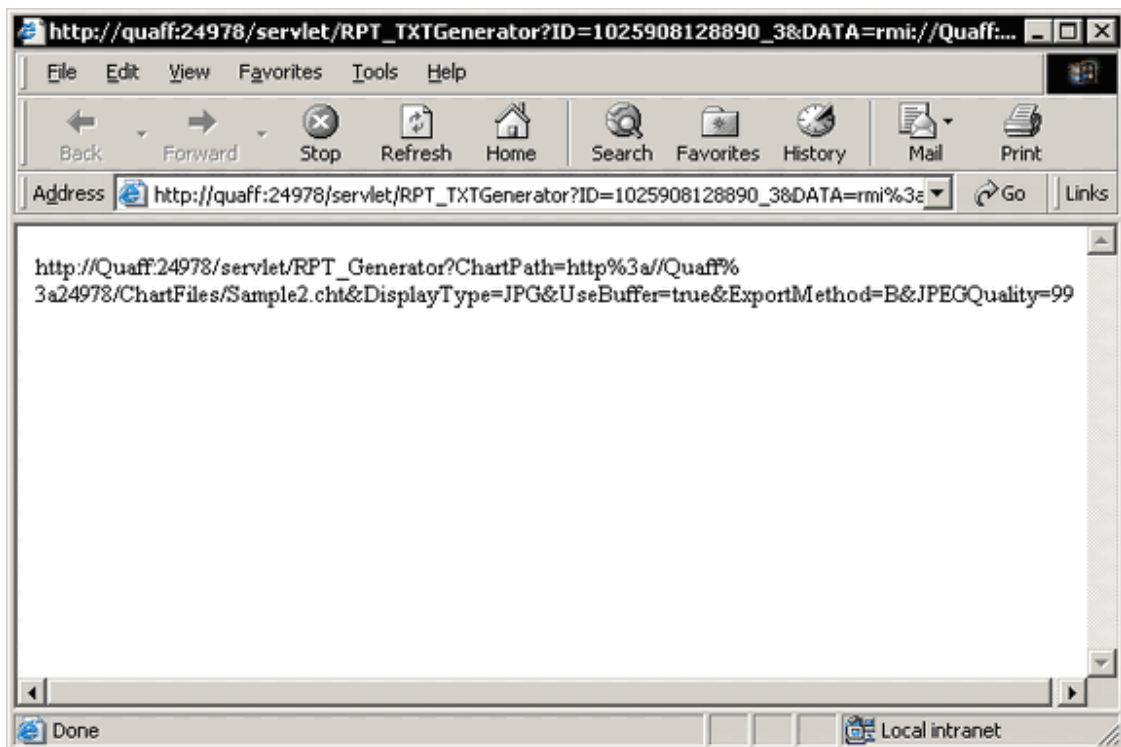
### Step 7: Create an Image URL

このポイントで Organizer をスタートさせ、チャートとレポートを作成し、メニューページを使って配置します。これから URL を使用して配置します。最初に作成したチャートを配置する為のイメージ URL を作成します。イメージ URL によりユーザの Web ページをサーバへのコールとして組み込むことができ、ダイナミックな・イメージを表示できます。イメージ URL を生成する為にチャートファイルを選択し、ツールバーの URL

アイコン  をクリックします。イメージを生成する為のいくつかのオプションを指定する為のダイアログが現れます。



イメージ URL に関するオプションはすべてユーザガイドの Chapter 8 に説明があります。このケースはデフォルト・オプションにして、「Ok」をクリックします。URL スtringを含んだ新しいウィンドウがオープンします。



この URL はイメージを生成する為に HTML コードに直接カットアンドペーストできます。URL をテストする為に下記のサンプル・コードを使用ください。

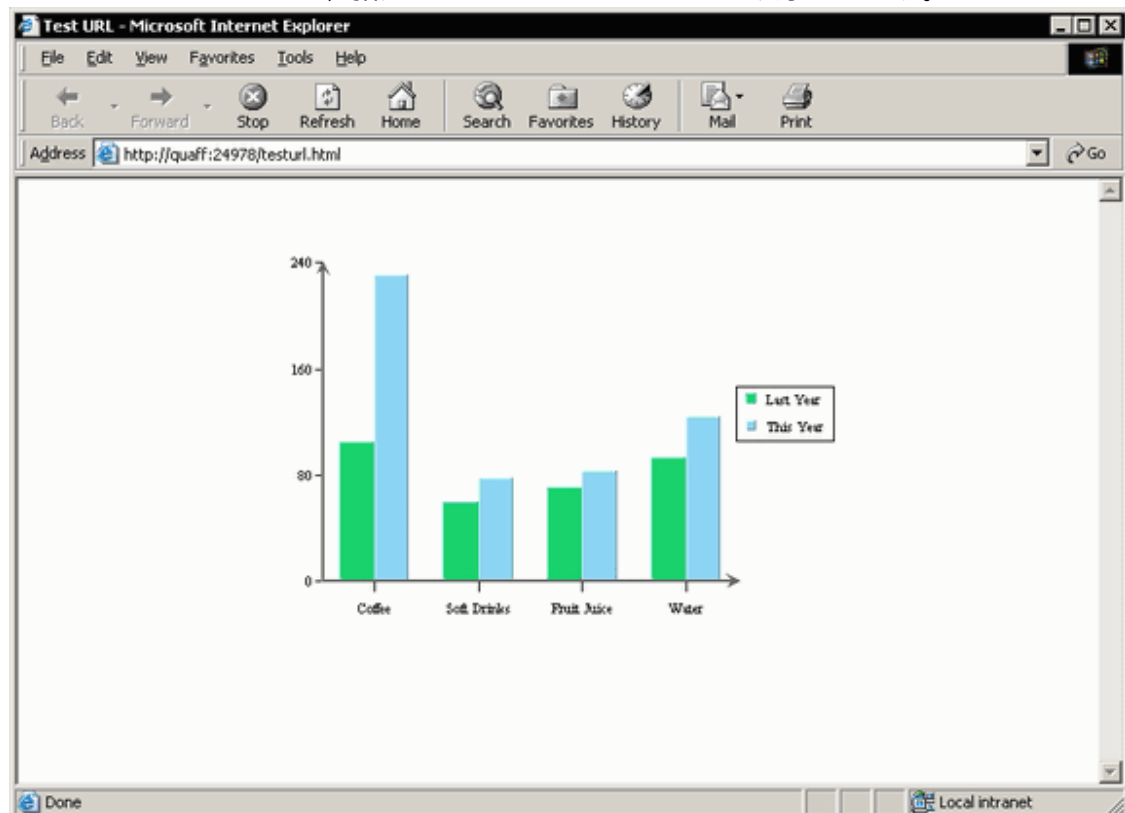
```
<html>
<head>
<title>Test URL</title>
</head>
<body>
   <br>
<center>

</center>
</body>
</html>
```


テキストエディタでこのコードをコピーアンドペーストして生成した URL の<img src> タグにペーストください。それから ERES サーバ・ルートに HTML ファイルとしてセーブください。(インストレーションの下の webapps/ROOT) それから Web ブラウザをオープンし、下記の URL にそって生成したファイル指定します。

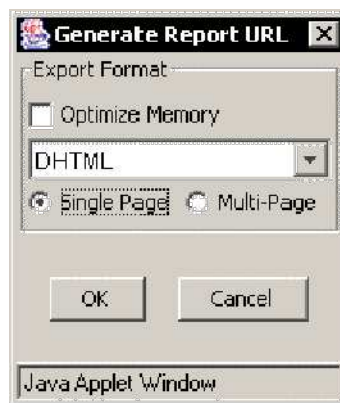
<http://machinename:port/filename.html>

このページがロードされ、指定したチャートのイメージが表示されます。

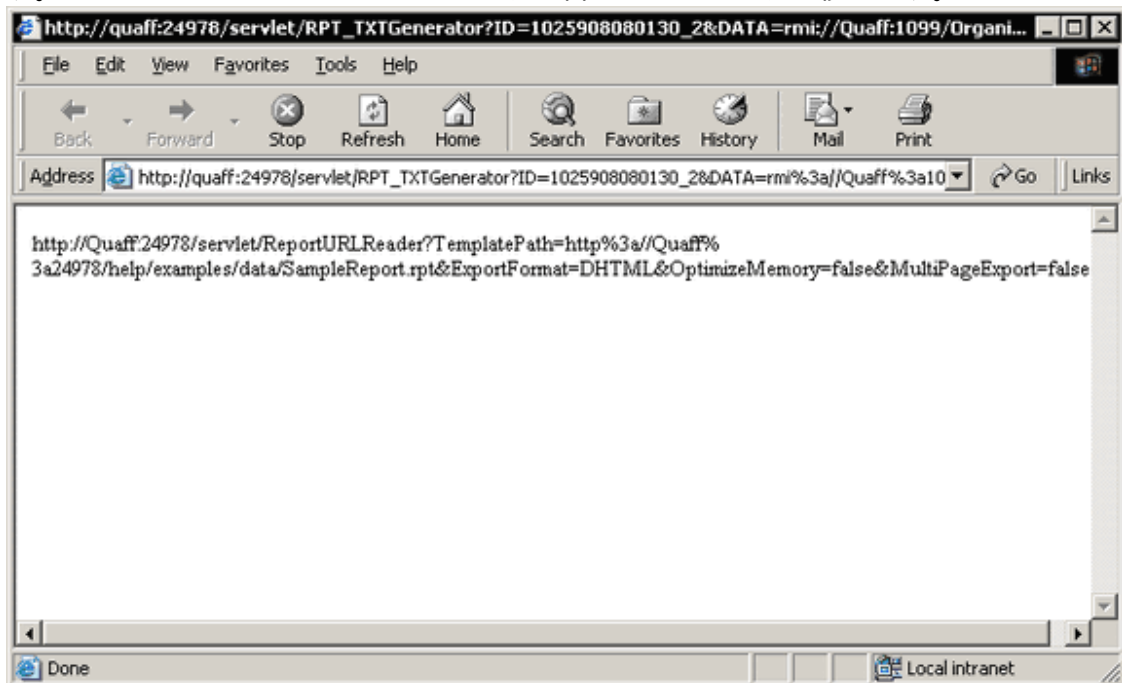


## Step 8: Create a Report URL

チャート同様レポートも URL で配置されます。しかし Web ページに<IMG SRC>タグでレポートを組み込むことは実用的ではありません。むしろレポート URL はブラウザのアドレスラインに直接組み込まれるか、直接にリンクします。レポート URL の作成はイメージ URL の作成と同じです。Organizer で作成したレポートを選択し、ツールバーの URL ボタン  をクリックします。これにより生成したレポートのオプションを指定する為のダイアログが開きます。

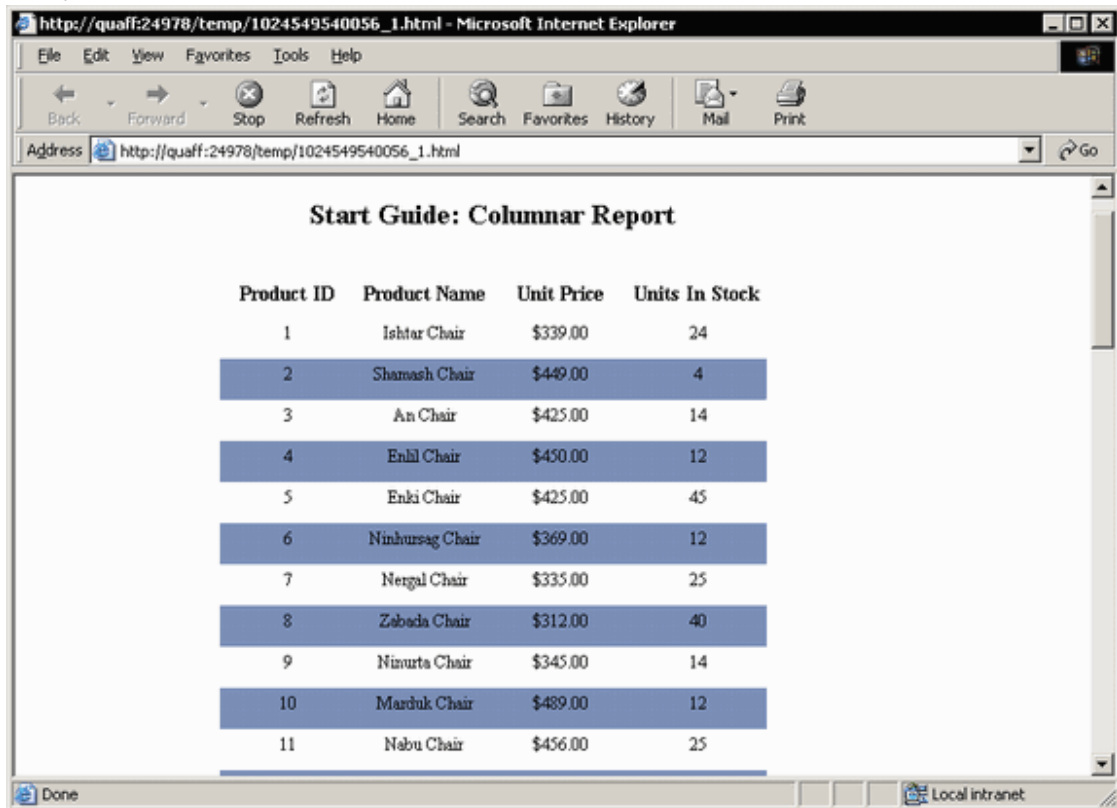


出力フォーマットとして DHTML をプルダウン・メニューから選択し、OK をクリックします。これによりレポート URL スtring を含んだダイアログに移ります。



レポートを生成する為 Web ブラウザのアドレスラインにこの URL を直接カットアンドペーストします。

ブラウザに URL をペーストし、稼働させます。レポートは HTML ページにロードされます。



The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer browser window displaying a report. The address bar shows the URL: http://qaaff:24978/temp/1024549540056\_1.html. The report title is "Start Guide: Columnar Report". The report content is a table with the following data:

Product ID	Product Name	Unit Price	Units In Stock
1	Ishtar Chair	\$339.00	24
2	Shamash Chair	\$449.00	4
3	An Chair	\$425.00	14
4	Enlil Chair	\$450.00	12
5	Enki Chair	\$425.00	45
6	Ninhursag Chair	\$369.00	12
7	Nergal Chair	\$335.00	25
8	Zabada Chair	\$312.00	40
9	Ninurta Chair	\$345.00	14
10	Marduk Chair	\$489.00	12
11	Nabu Chair	\$456.00	25

これで EspressReportES の基礎的な機能はカバーしました。その他の機能についてはユーザガイドを参照ください。